

ほのぼの

第16号

平成19年
7月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会



住職夫妻を囲んで、旧蹟参拝の皆さん
聖人流罪の地「居多ヶ浜」にて

情けは人の為ならず

信行寺住職

「情けは人の為ならず」という言葉が、昔からわが国には言い伝えられてきています。この言葉を現代の人々の中には、「他人に親切にするなどして、情けをかけることは、その人の為にならないのだから、すべきでない」と誤った理解をしている方が多くなりました。他人に対しては「見ざる、聞かざる、言わざる」をモットーにして、見て見ぬふりをして知らん顔。「これでいいのだ」と無関心を装い、自分だけ幸せだったらいと思う。しかし、これはまるで逆の意味にとっています。これは「回り回って自分の為になる」という意味を含んでいる言葉です。

日本語を粗末に扱う時代になってきました。この風潮が進みますと、その言葉で表してきた「日本人の心」も消えていきます。日本語を大事にし、正しく理解することが肝要。

西本願寺では「ビハラ」運動を展開しております。高齢者などの弱者に、精神的なことを含む手助けをするというボランティア活動です。ビハラ養成研修会で研修を終えた人にその資格が与えられます。信行寺門信徒会の中川さなえさんが、このたび資格を習得されました。尊く、誠に有難いことです。人は一人で生きているのではない。お互いが肩を寄せ合って生きていることを確認させていただきましょう。



4月8日（日）は、お釈迦様の誕生日で、信行寺では、子供達を招いて「花まつり」が開かれました。当日は手品のアトラクションもあって、大人も子供も楽しい一日でした。当日戴いた作文や絵を特集しました。



花まつりの日 米田空城（小三年）

花まつりで、ほくはおきようをあげました。その時、なるべくおおきな声であげました。そうすると、きもちがよかったです。ほくは前の日からおきようのれんしゅうをしました。

花まつりには、てじなの人に来てくれて楽しかったです。また来年も、たくさんの人がおまいりしてほしいです。

（信行寺五代目）



のの様との再会 賀子夏帆（中一年）

私の幼稚園では、あみだ如来様を「のの様」として、まつっています。だから先日の「花

まつり」で会った時、とてもうれしくなりました。

とても優しいような顔で、私まで優しい気持ちになれました。そのおかげか、一緒に参加していた小さい子供たちに、とても優しく接することができました。

「花まつり」で、とてもたのしい思い出がたくさんできたので参加してよかったと思います。

できたら来年も参加したいと思っています。





副住職の指導を受ける子供たち



楽しかった花まつり

賀子正也（小三年）

ほくは、さいしよわくわくしました。中に入っ
たらとてもきれいでした。



そして、あみだによらいさまに、色いろして、せいざをして、赤
い本を読んだり、プリントを読んだりしました。せいざをずっと
するのはしんどかったけれども、とてもしゅう中力がアップしま
した。その後ジュースを飲んだり、おかしを食べたり、絵や紙し
ばいを書いたり読んでもらったりしました。さい後は、友だちと
一しょに公園で遊んだりしたので、とても楽しかったです。本当
に米田くんの「花まつり」にさんかしてよかったと思います。

朝田真衣（小三年）



「花まつり」のまえの日に、おとうととおつと
めのれんしゅうにいきました。こえを出すこ
きは、しせいをたたくして、おなかからこ
えを出すようにおしえてくれました。はじめは、あんまりこえが
出ませんでした。ほんばんのときは、まえの日のれんしゅうより
こえがうまくなっていました。これから、こえを出すようにが
んばっていききたいです。





▲手品に挑戦・なかなか難しい。

安田先生の手品に見入る子供達▼



今年のお花まつりは、楽しかったです。特に印象に残ったのは、コーラスの「千の風になって」です。なんかとても「かなしい」という感じでした。手品も「あーすごいなー」と思いました。最後のはこからいろいろと出てくるのが、ちょっと不しぎでした。トランプの手品は、もしかして3まいえがちがうのでは：？と、予そつは当り。その他はハンカチとコインを使った手品で、なんとなくわかりませんでした。その他には、オシヤカさまに花とりんごをおそなえすることが少しあせった（かな）甘茶は、めっちゃ、甘かったです。最後に、お人形：：みたいなヒヨコをくれました。とてもかわいかったです。（まだつくえにカざっています）

来年の花まつりも行きたいです。

紺谷美優（小五年）



米田こうりん（幼年長組）



なががわはるき（小1年）



田中悠樹（小4年）



柳生修吾（小3年）



二之湯達也（小3年）

第六回信行寺門信徒会総会開催さる

平成十九年四月二十八日（土）信行寺門信徒会総会が開催されました。十八年度の事業報告、十九年度の事業計画、さらに会計報告等異議なく承認されました

（会計報告をする石田さん）



二年毎の任期であります役員の変動は、今回前年度を引き継いで留任することになりました。

19年度の事業計画

- ①寺報「ほのぼの」の発行
年三回（7月、11月、3月）発行予定
- ②研修旅行Ⅱ平成19年4月19日～20日親鸞聖人の越後ご旧跡参拝旅行を実施。
- ③夏期特別法座（第25回）
「シーパル須磨」にて19年8月17日午前11時～午後3時の開催予定
- ④本山念仏奉仕団（第24回）
平成19年11月8日（木）～9日（金）に決まりました。

この後、住職の法話、「恩徳讃」の斉唱、長井副会長の閉会の辞をもって午後4時無事終了しました。

ひとりごと

千の風になって



最近、「千の風になって」の歌をテレビ、ラジオなどでよく耳にするようになりました。

信行寺では約三年前、阪神大震災追悼法要に参詣下さった大阪「はすの花」コーラスの方より初めて知り、感動しました。

以後、昨年末の紅白歌合戦で秋川雅史さんが歌ってからは更に、環が広まったようです。「私のお墓の前で泣かないで下さい」で始まるこの詩文は私共、門信徒にとりまして大空、そして吹き渡る風がお浄土からの仏さまの働きとして感じられるのですが……。いかがでしょうか？

とにかく感銘を受けるうたです。

（長井記）

親鸞聖人

越後ご旧蹟参拝の記

前夜の雨も上がり清々しい朝、総勢25人ゆったり大型バスに乗り、元氣に新潟へ向けて出発しました。

今から八百年前、親鸞聖人は念仏停止、次いで流罪に処せられました。大変ご苦勞をされ居多ヶ浜に上陸されました。聖人が最初にお住まいになった竹之内草庵跡を訪れ、当時のご不自由な暮らしに思いを馳せました。次に国府別院に参拝、この地で聖人は恵信尼様との結婚生活を営まれたと聞き、人間聖人を身近に感じることができました。別院では、

二日後に本山よりご門主様が来られるとのことで、準備に大わらわでした。本堂の美しいこと、莊重な極彩色で色どられた天井の絵、彫刻の欄間等、上越市の文化財に指定されているのとこのことです。予定の参拝も順調に進み恵信尼様が晩年を過ごされた地に建設された恵信尼公廟所を訪れました。美しく整備された施設内には、恵信尼様に関する資料の展示や、特産品販売コーナーがあり、地域のコミュニケーションの場になっています。バスの前方に、雪を戴いた



赤倉ホテルロビー

山々を見ながら今夜の宿である赤倉ホテルに到着、おいしいおはぎと桜茶の歓迎接待を受けました。ホテルのロビーに大きな仏壇があり、ホテルにご縁のある方々が集い「有縁講」と名づけ、報恩講を開いておられるとのこと。

翌朝は大仏壇の前でおつとめをしました。

ホテルの屋上から見た妙高の山々、山頂は雪、麓は桜の絶景に息をのみました。バスは一路淨福寺に。聖人は流罪赦免の勅使に会いに国府に行かれる途中、激しい寒風に会われ、柿崎のとある家に一夜の宿を借りまし

た。聖人よりご教化をいただいたこの家の主人忠長は、阿弥陀仏のご慈悲に目覚め、ご信心の喜びからお念仏を称えるのでした。聖人もこれを深く喜ばれ、「南無不可思議光如来」の九字の御名号をお与えになりました。

柿崎にしぶしぶ宿をとりけるに

主の心熱しなりけり

忠長返歌

かど通る法師に宿をかしければ

書きくれたりや九字の名号

二日間て聖人のご苦勞をすべて感じることはできませんが、一端を知ることができました。合掌

(稲岡好康 記)

春の彼岸法要法話

春のお彼岸法要は、三月二十四日（土）二十五日（日）の二日間とりおこなわれました。「生きていく」ということを私たちはどのように考えているのでしょうか。お二人のご講師のお話の中で、気付かされるが多々ありました。その一部を抜粋しました。

信行寺住職

人は自分の年齢をいうのに、「もう〇〇歳になった」といいます。こういいますと、あと生きる年数が少なくなったように思います。同じことでも、「まだ〇〇歳だ」といいますと、これからの人生に希望があると思えるのです。物を数えるのにも、「もう」とか「まだ」とかで受け取り方が大きく違ってくるものです。私も今年で66歳になります。人生80歳としますと、あと14年しかありません。しかしまだ66歳だと思うと、これから先は無量寿ということと、「あれもできる、これもできる」と人生の受けとめ方は大きく変わってきます。

「ああいい人生を送らせてもらった」と喜べるような生き方をしたいものと願っています。

（森本 記）



藤実無極先生

私は、毎日々々が「今が始り……」だと思っております。本願寺のスローガンは、今までの25年間「念仏の声を子や孫に……」だったのですが、今年から「共に（いのち）輝く……」に変わりました。自分の（いのち）をどうやって磨き、輝かせるかを考えてみましょう。私たちは健康といいますが、体の健康のことを考えるのですが、「このころの健康」についてはどうでしょうか。健康の健とは、身体が健やかなことであり、康とはこころが康らかなこととあります。「からだ」と「こころ」のバランスがとれている状態が本当の健康であります。



「こころ」の健康のためには、「ナムアミダブツ」のお念仏をいただくこと、すなわち、お念仏を「こころ」の支え（栄養剤）として、「こころ」の健康を保たねばならないのではないのでしょうか「苦あれば楽あり」「楽あれば苦あり」です。人生はものの見方、考え方で変わるものなのです。

（川口 記）

信行寺行事予定

第25回夏期特別法座ご案内

恒例の夏期特別法座を下記の通り開催します。各法座の皆様が、一堂に会しての懇親の場です。お誘い合わせご参加下さい。

記

日時＝平成19年8月17日（金曜日）

午前11時～午後3時

場所＝「シーパル須磨」

TEL 078 (731) 6815

法話＝信行寺住職

会費＝4000円（昼食代を含む）

申込＝信行寺 TEL 078 (732) 5209

FAX 078 (732) 3266

参加費は当日でも結構です。

秋の彼岸法要ご案内

日時＝九月十五日（土）

午後二時より

法話＝高田慈昭先生

§

日時＝九月十六日（日）

午後二時より

法話＝信行寺住職

第24回本山念仏奉仕団

日時＝十一月八日（木）～九日（金）

十五回、二十回と長期にわたり

参加、多くの方が本山より参加賞

をいただいております。

ご家族、知人などお誘い合わせご

参加下さい。

お申込は信行寺まで



（京都西本願寺）白書院

（国宝）

編集後記

今回は花まつり（四月八日）の模様を特集しました。

以前にも何回か記事にしておりますが、この度、子供さん達に絵と感想文をお願いしたところ多くの応募がありましたので賑々しく紙面を飾ることにしました。副住職と次男正樹さん御夫妻のお子様方も丁度この行事の主役をとめられる年令でもあります。信行寺の花まつりは年々楽しくお子様方は勿論、御父兄、参詣の人々に印象深くなるのではないでしようか。

尚、夏休みに入る七月二十五日（水）十四時から「夏休み子供大会」を予定しております

（長井記）